H21健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・プロジェクトは概ね当初計画のとおり推進されていると認識します。引き続き計画事項の達成に向けた積極的な行動を期待します。

◆成果に関するアドバイス

・樹冠長を十分に観察して森林の将来性を検討し、目標到達に必要な施業方針を決定して下さい。
・一部で改善は見られましたが、今後、林内への進入を防止する等の観点から実施されてきた敷設後のヒューム管撤去を見直し、入り口に施錠する方式へと切り替えて下さい。
・路体の損壊を助長する表層土等を混ぜた道づくりは早急に改善して下さい。その際、出来る限り自然に負担をかけず、過剰な費用投資を伴わず、効率的な木材生産に資する道づくりに取り組んで下さい。
・残存木の損傷頻度を低下させるため、現場責任者が最終的に残す木をあらかじめ明示するなどの工夫を速やかに実践して下さい。
・林内土壌が流亡した結果、保水機能が低下しており、現状のままでは樹木の生長に必要な栄養分や水分を保持することが困難なため、さらに森林の荒廃が進展する恐れがあります。こうした状況を改善するため、まず間伐を行って林内に光を導入し、1年草本による下層植生を回復、次に表層土の回復状況に応じた在来の枝・葉による土壌回復に努めて下さい。
・土壌の乾燥具合や下層植生の繁茂状況をよく観察し、少しでも多くの葉が残る木の樹勢を回復するような根拠のある選木・間伐実施に努めて下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・近年、立方当たりの木材価格は低調であり事業採算性が厳しいことから、慣習にとらわれた木材生産方式から脱却し、特に、並材を生産する場合、生産性やコストを十分に考慮した新たな作業システム構築に取り組んで下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・該当無し（特段の言及無し）

◆発展性に関するアドバイス

・地域住民の理解を得るため、高性能林業機械を使ったデモンストレーションをモデル団地内外で積極的に開催し、新たな事業地を着実に集約化している点は高く評価できます。
・今後も引き続き、地元森林所有者のための提案型集約化施業の実践を期待します。
・なお、提案型集約化施業の推進を強く求める余り、闇雲な道づくり、木材生産に傾倒することの無いよう注意してください。

◆総括に関するアドバイス

・現状を確認すると、30年生を超える林分では、適期の間伐が不足したことによる生長の遅れが認められました。将来、こうした生長が十分に見込めない林分が広がることの無いよう、これを教訓としてプロジェクトを推進して下さい。
・森を良くするために道を作るという基本を忘れず、道が森林を荒廃させることの無いよう留意するとともに、実際の施業実施に当たっては、コスト削減にばかり捕らわれることなく現場を見て方針を定め、オペレーターとよく相談して計画を実践して下さい。
・全ての現場に反省点があります。道づくりの知識・技術を高めるため、たくさん勉強して知識と経験を蓄積し、自らのマニュアルを作成するなどして繰り返し検証し、感覚を身につけて下さい。
・若い人たちの多い森林組合であることから、他者の現場を見て今後もどんどん経験を積むことによって、大いにレベルアップすることを期待しています。

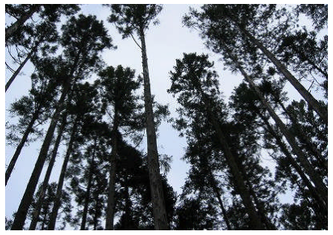
◆フォローアップ委員会の開催状況

平成21年12月28日

日　　時：　平成21年11月19日（木）
場　　所：　加茂郡白川町黒川地内
参加委員：　三島 喜八郎　岐阜県森林組合連合会　代表理事副会長
　　湯浅 勲　　日吉町森林組合　理事兼参事
　　篠田 成郎　　岐阜大学総合情報メディアセンター　教授
対　　象：　白川町森林組合

プロジェクトの概要説明

路網配置の考え方
について質疑応答



樹冠長が3割程度にまで
減少していた間伐施業地

盛土施工方法（土羽尻）の
フォローアップ

表層土の流亡により
降雨直後も乾燥気味の土壌

施業後にヒューム管が
撤去された作業道

不十分な路肩処理

表層土と下層植生の現況から
選木・間伐方針をアドバイス

H21健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会
委員長　　三島　喜八郎